

茗溪学園 JRC同好会

藤村 花穂 ・ 望月 理世

高校生ボランティア・アワード2022

「畑プロジェクト」

活動概要

私たちは、以下のような活動を行なっています。

- 1 学校の食堂から出た野菜くずを堆肥化する。
- 2 学校の畑で穀物や野菜を育て、地域の子ども食堂に寄付する。
- 3 学校の畑でひまわりを育て、福島やウクライナを支援する。



【きっかけ】 2021年10月

中学2年の技術・家庭の授業の一環で、校内の畑でさつまいもを栽培しましたが、天候の関係により授業時に収穫作業ができずにいました。このさつまいもを地域の子ども食堂に寄付したいという友達の発案に、私を含め多くの人が賛同し、放課後収穫作業をしました。泥だらけになりながら日没まで、さつまいもを掘り、泥をとり、新聞紙に包む作業を続けました。さつまいもは子ども食堂で無料で提供されるお弁当の材料として使用されました。

【その後】

校内の柿の木とキウイ棚で実る果実は、これまで有効に活用はされていませんでした。そこで、有志で収穫し、子ども食堂に寄付しました。

このような活動を継続させようと考え、子ども食堂で使ってもらえる穀物や野菜を育てることにしました。畑に小麦と玉ねぎを植え、栽培をスタートしました。

さらに、学校の食堂から出された野菜くずを堆肥化する活動もはじめました。

【大きな転機】 2021年11月

校内の畑が駐車場として改修されることになり、校内の畑が使用できなくなることが判明しました。先生方に私たちの活動について説明をし、畑での活動を継続させてもらえるようお願いした結果、校内の別の場所に畑を作って良いことになりました。

荒地で雑草だらけだった場所を畑にするために、有志で開墾作業をしました。雑草を抜き、土を柔らかくし、石を取り除き、新しい土を入れ、小麦と玉ねぎを植え替えました。

【現在】

新しい畑に植え替えた小麦と玉ねぎは順調に育っています。更に、地域の方から、にんじん、じゃがいも、トマト、枝豆の苗を譲っていただき、畑を広げ、多くの野菜を育てています。

ひまわりの花も育て始めました。ウクライナの国の花であるひまわりを育てることで、ウクライナの方々に思いを寄せていることを知ってもらえるのではないかと考えたことがきっかけです。その後、ひまわりは被災地福島の支援にも役立つことを知り、今後さらに多くのひまわりを育てる予定です。

堆肥化については試行錯誤しながら運用しています。ドラム缶で作ったコンポストで、7ヶ月で300キロの野菜くずを堆肥化することができました。

【地域の方からの支援】

私たちの活動を知った地域の多くの方が支援してくださり、活動を続けています。苗をくださった方とは別の方が、軽トラックの荷台いっぱいの大量の肥料を寄付してくださいました。また、小麦の専門家の方が来校してくださり、育て方の助言をくださいました。

つくば市役所の環境衛生課から、堆肥化についての情報提供や資材提供もしていただきました。

【海外の同世代の方々との交流】

同じような活動を行なっている海外の高校生とオンラインで情報交換会を行いました。

活動の目的

～持続可能な社会の実現～

- 1 私たちの持つ力（知識、体力、経験など）を地域のために活用する。
- 2 畑を通じて地域のさまざまな方と交流し、志を同じくする方々とつながる。
- 3 畑を通じて国内外の同世代の方と交流し、志を同じくする方々と繋がる。
- 4 畑を通じて地域や社会の課題を解決する力を身につける。



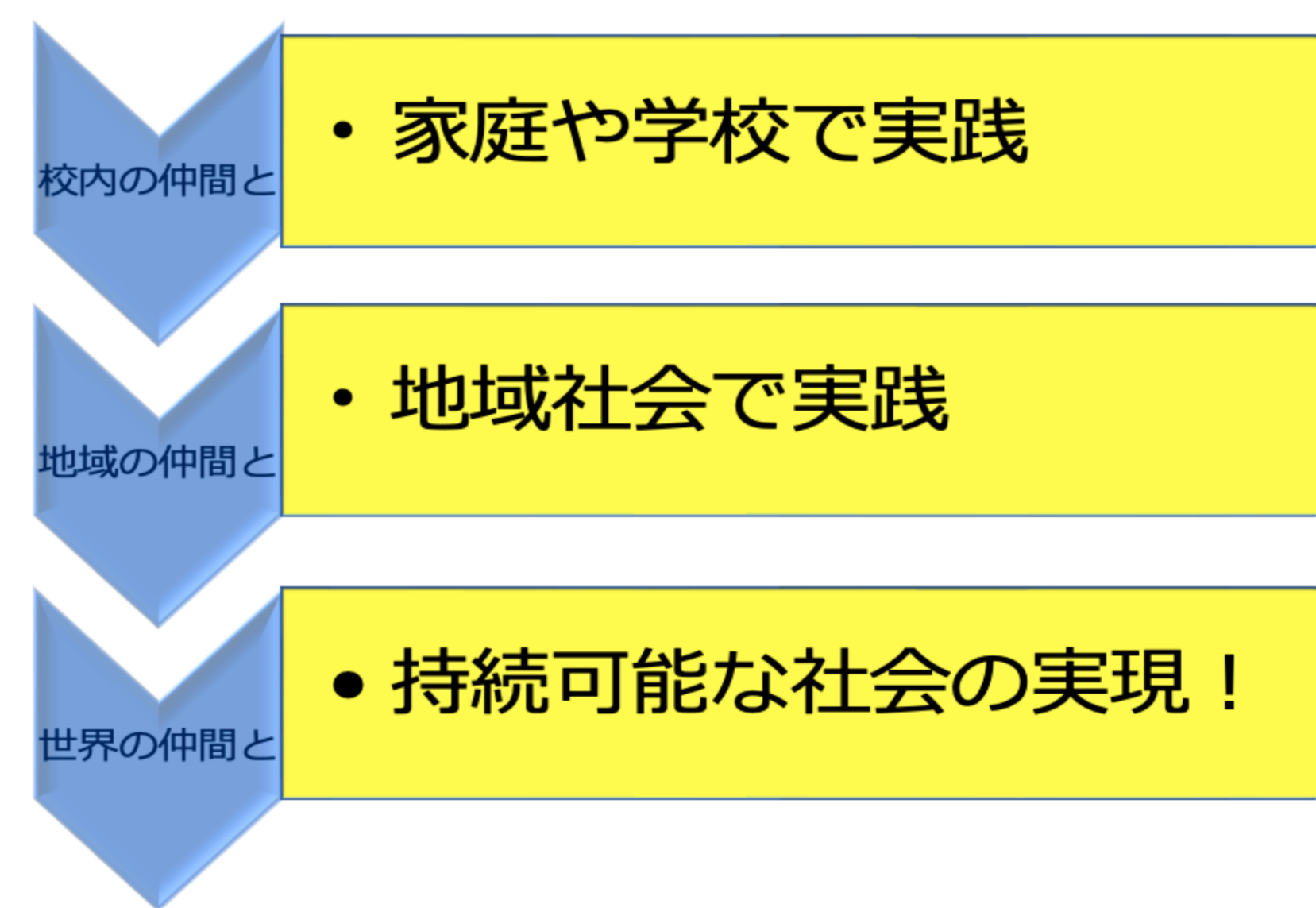
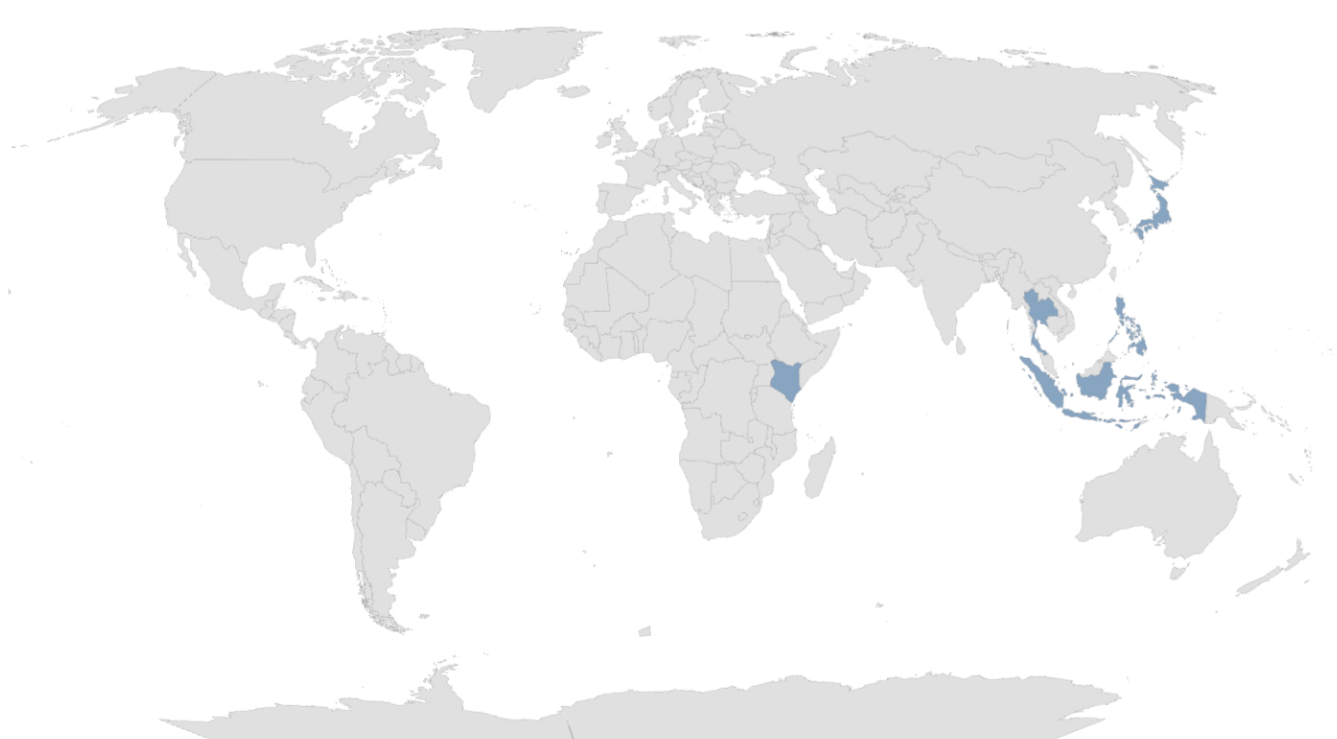
活動の実績

2021年10月 子ども食堂に食材（さつまいも、柿、柿のジャム、キウイ）を寄付

2022年2月 国際ボランティア学会で発表

2022年2月 インドネシア、タイ、フィリピン、ケニアの高校生と情報交換

2021年11月～2022年6月 食堂の残飯300キロを堆肥化



今後の活動

- 1 学校の食堂の野菜くずを堆肥化し、校内の畑で活用する。
- 2 畑で育てている作物を収穫し、地域の子ども食堂に寄付する。
- 3 地域の方と交流し、地域の仲間と協働的な実践活動を行なう。
- 4 国内外の高校生と交流し、情報交換をしたり共にできる活動を見つける。

持続可能な社会の実現のため、世界のことを考えながら、地域社会でできることを探して実践していきたいと思っています。

活動の輪を広げるために、志を同じくする仲間の輪を校内外で広げていきたいと思っています。

Think Globally Act Locally



活動団体

茗溪学園 JRC同好会

設立 2021年
会員 140名
顧問 ユ・サイイン先生

